

NEW
Pioneer

日本の写真文化を海外へ 発信するNewプロジェクト

想(そう)ふおと- Thoughts Photo Japan-

①

株式会社アスカネットが新たな試みとして提案するインバウンド外国人観光客向けの写真撮影サービス「想ふおと」には、外国人観光客に「日本式写真撮影」を文化体験として楽しんでほしい、との想いが込められている。インバウンド需要の獲得とともに、スタジオ稼働率向上を図る。本コーナーでは本格的なリリースを前に、今回先行して東京・豊島区にある「LOVST PHOTO STUDIO 池袋東武店」で行なわれたモニター撮影の様子をレポートする。



LOVST PHOTO STUDIO 池袋東武店での「想ふおと」撮影例



撮影前の衣装選びの段階から、今回モニター撮影に参加したファミリーのテンションはMAX。撮影から写真選びまで、終始和やかに行なわれた。

観光庁によると、2023年の訪日外国人の延べ宿泊者数は1億1,417万5,810人泊。2019年は1億1,566万人だったので、コロナ禍前の水準にまで回復している。また2020年10月に日本政府観光局(JNTO)が公表した資料によると、2030年までの目標として訪日外国人旅行者数は6,000万人、消費額は15兆円を掲げている。国策として、とくに富裕旅行者のさらなる取り込みを強化する狙いだ。

こうしたなか、株式会社アスカネットは

日本の心を海外へ伝え、新しい文化を創出するフォト事業として「想ふおと」を提唱。一般的な欧米式スタジオは衣装やヘアメイクが自前で、小物や背景もシンプルなものを使っているところが目立つのに対して、日本のスタジオはお客様にとって思い出の1日になるように「撮影体験を楽しんでもらう」ことをコンセプトに掲げ、衣装やヘアメイクを完備していることから手ぶらでもOKという気軽さを特徴としているところが多々ある。

実際にアスカネットが在日アメリカ人へのマーケティングを行なった結果からも、日本式スタジオの外国人需要は見込めると判断。「日本の写真文化が世界に通用する価値は十分にある」と考えた。「想ふおと」は、インバウンド向けサービスの文化体験として、まずは国内から展開。欧米からの訪日旅行者やハネムーンカップル(欧米圏の富裕層など)、日本在住ファミリー等をターゲットに「体験」を重視したプロモーションを行なっていく。



Thoughts
Photo Japan

Unique photography experience in Japan.



<https://thoughtsphoto.com/>

LOVST
PHOTO STUDIO

<https://lovstmade.com/>



基本的に「想ふおと」では、アスカネットが窓口となって日本の想ふおと提携スタジオに送客。利用客は「TripAdvisor」などの旅行サイトにて予約・決済を行ない、提携スタジオにて撮影する。アスカネットでは、通訳の手配やデータ納品なども行なう予定としている。

モニター撮影に参加した ファミリーから大好評！

今回本誌では、「想ふおと」の正式リリースを前にモニター撮影の現場取材する機会が得られた。協力店舗は「LOVST PHOTO STUDIO 池袋東武店」。国内最大級の子ども服メーカーである株式会社ナルミヤ・インターナショナルが展開するフォトスタジオで、バースデーや七五三をはじめキッズ、

ファミリー撮影を中心としている。

池袋東武店は約3年前にオープン。平均顧客単価は5~6万円で、プリント受注率は6割以上を占める。アルバムは、最低24ページからのスタンダードタイプが1番人気で、親族などプレゼント用に追加発注も多々あるようだ。撮影から接客までは基本ワンオペ(状況に応じて他のスタッフがサポート)。最初から最後まで顧客に寄り添う体制としている。

店舗面積は、LOVSTにおいて中型規模を誇る(最大規模はマリンドウオークヨコハマ店の約140坪)。スタジオは4面あり、撮影内容やイベントなどによりフレキシブルにセットチェンジ。季節に合わせた装飾(とくにお花は人気)や小物(本誌取材時には雛人形も)を用意しており、リピーターも多い。衣装も含めて顧客に提案する

ことで、撮影カット数が増える傾向にある。

今回、想ふおとに参加したモニターはオーストラリア人のご主人と日本人の奥様、1歳のお子様の3人家族。旅行サイト「TripAdvisor」での予約から撮影、納品までを同店にて体験していたが、当初のプランに加えてキッズ着物による撮影も追加依頼するほど満足の様子。「今までプロのカメラマンに撮ってもらったなかで1番良かった」と太鼓判を押していた。

アスカネットではモニター撮影で得た成果などをもとに、さらに充実させて本格リリースに向けて展開していくという。「今後もインバウンド向け撮影スタジオへ参加を希望する写真館様やフォトグラファー様を募集。提携スタジオ様を増やしていく予定」としている。日本伝統の写真文化が、ワールドワイドに広がりそうだ。